

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 5日は、高気圧が日本の東へ移動し、前線が東シナ海から日本の南へのびる。
- 6日は、前線を伴った低気圧が日本の南から日本の東へ進む。
- 7日は、高気圧が沿海州付近へ移動する。
- 8日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が中国東北区を東進する。
- 9日は、低気圧が北日本付近へ進み、前線が日本海へのびる。

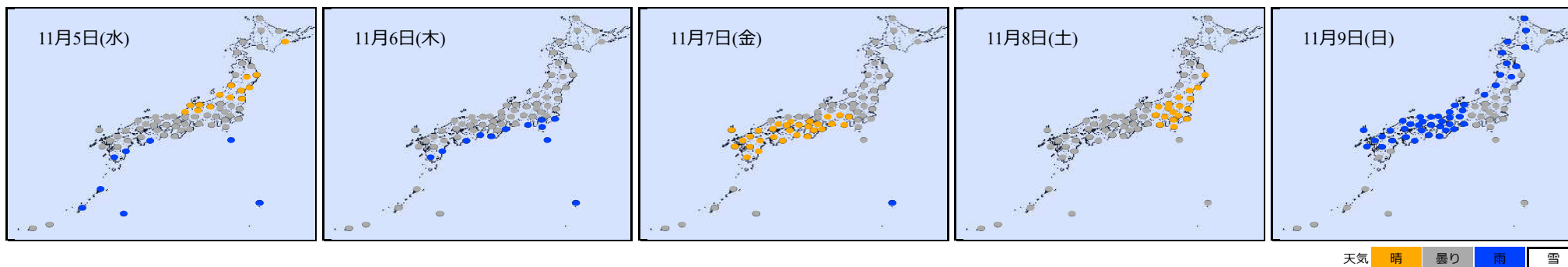
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 5日から6日にかけては、九州南部・奄美地方と沖縄本島地方、伊豆諸島では、前線の活動の程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

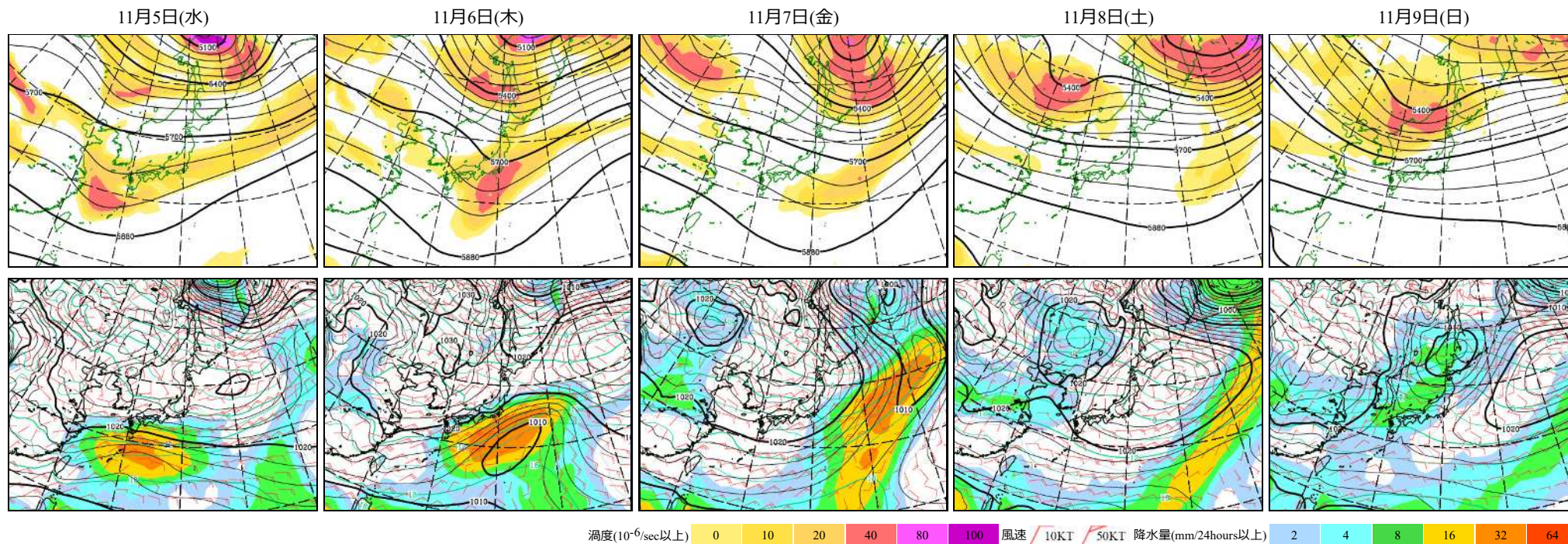
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

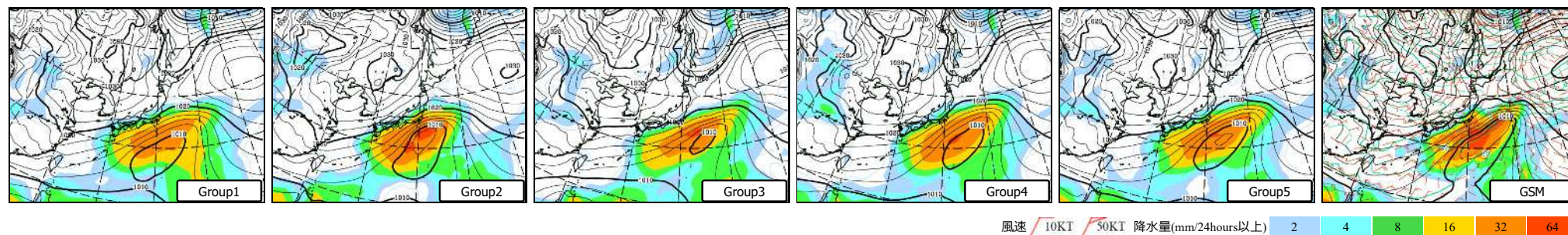


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、9日は雨の降る所が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや晴れの日が多いが、5日と6日は雨の降る所があり、9日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、5日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月6日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日頃は東日本付近へ進むトラフが深くなり、早くなった。これに対応して、日本の南の低気圧は本州から離れて進み、東進が早まった。また、8日は北日本付近へ進むリッジが強まり、9日に沿海州付近へ進むトラフは明瞭となった。降水確率ガイダンスは、5日から6日の西・東日本で小さくなった。
- 5日から6日の日本の南の低気圧については、降水域は各モデルとも太平洋側沿岸部に限られる予想でおおむね揃ってきた。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。